

プログラム第1日目:9月5日(土)

RTD 1

12:30~14:30

**R-1 精神科病院の保護室という時空間について考える**

—大阪大学ユネスコチェア『グローバル時代の健康と教育』共催企画—

企画者：池田光穂（大阪大学，ユネスコチェア）

話題提供者：三宅薫（木村病院）

宮本眞巳（亀田医療大学）

RTD 2

12:30~14:30

**R-2 「生きる権利」を問う**

企画者：細田 満和子（星槎大学）

話題提供者：増山ゆかり（元いしずえ（サリドマイド福祉センター））

葉山靖明（NPO 学びあい，株式会社ケアプラネット）

杉原正子（東京医療センター，慶應義塾大学，東京医科歯科大学）

RTD 3

12:30~14:30

**R-3 文書としての記録から見えるもの**

—保健医療における記録と実践の連関を考える—

企画者・話題提供者：細野知子（日本赤十字看護大学）

企画者・話題提供者：海老田大五朗（新潟青陵大学）

企画者・司会：杉本隆久（法政大学他）

コメンテーター：三井さよ（法政大学）

コメンテーター：榊原哲也（東京女子大学）

## ●セッション1 理論・思想

司会：金子 雅彦（防衛医科大学校）

**1-1 治癒の過程における二者関係**  
—ヨガの指導を事例として—

○栗原美紀（上智大学）

**1-2 精神医療のユーザー・サバイバーにおける障害者運動観**  
—欧州のネットワークにおける議論から—

○伊東香純（立命館大学）

**1-3 医学理論はいかにして教育制度に取り入れられるか**  
—自閉症教育制度における脳機能障害説の位置づけ—

○篠宮紗和子（東京大学）

**1-4 Health Behavior から Health Practice へ？**  
—Social Practice Theory の現在と可能性—

○松繁卓哉（国立保健医療科学院）

**1-5 1920-30年代の東京市における低所得層の出産と医療施設**

○由井秀樹（静岡大学, 日本学術振興会）

**1-6 日本 MTL における光田健輔の戦略**  
—キリスト教を隔離主義へ傾ける試み—

○松岡秀明（東京医科歯科大学）

## ●セッション2 インタビュー

司会：鷹田 佳典（日本赤十字看護大学）

## 2-1 当事者経験にもとづく協働設計（EBCD）の手法を用いた

災害から認知症の人を守るまちづくりの可能性

○佐藤（佐久間）りか（認定 NPO 法人健康と病いの語りディベックス・ジャパン）

## 2-2 20 歳代の高次脳機能障害者が行う自己開示に関する研究

—本人のジレンマに焦点を当てて—

○澤岡友輝（立命館大学）

## 2-3 非発症保因者における遺伝学的リスクの捉え方

○木矢幸孝（東京大学）

## 2-4 外傷により脊髄を損傷した人の経験

—受傷後約 10 年を経た語りの現象学的研究—

○村上優子（東京都立大学）

## 2-5 自らのがん経験において想起される「がんの物語」

—がん経験者へのインタビュー調査より—

○河田純一（大正大学）

## 2-6 配偶子提供医療（DC）における告知の在り方の検討

—インタビュー調査を通じて—

○入澤仁美（兵庫医科大学）

**P1-1 気分障害により休業した新人の体験**

—休業中に必要と感じた支援—

○市川由希子 (大手前大学)

**P1-2 学校における医療的ケアに対する認識**

—医療的ケアが必要な子どもを持つ家族の話の前後での学生の意識の変化—

○笹谷絵里 (花園大学)

**P1-3 新人看護師の時間外労働の長さによる心身健康、離職意向及び職務満足度の比較**

○佐々木菜摘 (千葉西総合病院)・原ゆかり (東北大学)・  
杉山祥子 (東北大学)・朝倉京子 (東北大学)

**P1-4 心不全の発症に至る過程の患者の語り**

—「心不全の語りデータベース」作成の経過報告—

○射場典子 (山梨大学、認定 NPO 法人健康と病いの語りディペックス・ジャパン)・  
鷹田佳典 (日本赤十字看護大学)

**P1-5 1960年代1970年代の薬害被害救済をめぐるポリティクス**

○松枝亜希子 (立命館大学)

**P1-6 役職のない中高年看護師の役割獲得過程の様相**

○鈴江智恵 (一宮研伸大学)

**P1-7 対象者の心理社会面に焦点を当てたリハ専門職臨床研修プログラム**

○小林幸治 (目白大学)

基調講演

会期中随時

司会：山中浩司（大阪大学）

講演 扉を開ければ見えてくる新しい病院のかたち

—ホスピタルアートを中心に—

中川義信（(独) 四国こどもとおとなの医療センター 名誉院長）

対談シンポジウム

会期中随時

司会：池田光穂（大阪大学）

対談 哲学カフェとコミュニケーションデザイン

死ぬことを見すえたデザイン思考は可能か

対談者：中岡成文（一般社団法人哲学相談おんころ）

「哲学対話」をとおして医療現場のコミュニケーションをデザインする

対談者：西村高宏（福井大学）

シンポジウム

会期中随時

司会：山中浩司（大阪大学）

シンポジウム 生きるための社会デザインを考える

シンポジスト：中川義信（(独) 四国こどもとおとなの医療センター 名誉院長）

中岡成文（一般社団法人哲学相談おんころ）

西村高宏（福井大学）

池田光穂（大阪大学）

プログラム第2日目:9月6日(日)

RTD 4

10:00~12:00

**R-4 当事者活動における苦悩のマネジメント**

—運営側の視点に着目して—

企画者：杉本洋（新潟医療福祉大学）

話題提供者：五十嵐紀子（新潟医療福祉大学）

佐藤裕紀（新潟医療福祉大学）

杉本洋（新潟医療福祉大学）

原口彩子（新潟医療福祉大学）

RTD 5

10:00~12:00

**R-5 生政治の新時代の象徴としての HPV ワクチンに伴う特有・特異な問題**

—いわゆる「反ワクチン運動」と一線を画した視座から医療社会学的に考察する—

企画者・話題提供者：佐々木香織（小樽商科大学）

話題提供者：村岡 潔（佛教大学）

打出喜義（金城大学）

井上芳保（北海道教育大学）

RTD 6

10:00~12:00

**R-6 若者の生きづらさと社会デザイン**

—大阪大学ユネスコチェア『グローバル時代の健康と教育』共催企画—

企画者：小笠原理恵（大阪大学，ユネスコチェア）

司会：山中浩司（大阪大学，ユネスコチェア）

話題提供者：辻 大介（大阪大学，ユネスコチェア）

志水洋人（龍谷大学）

笠井敬太（大阪大学）

高木美歩（立命館大学）

## ●セッション3 セラピー・地域

司会：山田 富秋（松山大学）

## 3-1 音楽療法を記述する実践的方法の研究

—セラピストたちへのインタビューを中心に—

○吉川侑輝（慶應義塾大学）・河村裕樹（一橋大学，法政大学）

## 3-2 音楽療法の効果はどのように説明されるのか

—精神医療における音楽療法に着目して—

○河村裕樹（一橋大学，法政大学）・吉川侑輝（慶應義塾大学）

## 3-3 複数の言説をとりいれた移民のための精神保健

—イタリアの精神科医と心理士の語りを中心に—

○彌吉恵子（大阪大学）

## 3-4 神経難病の人びとの地域移行についての課題

—支援者の立場に着目して—

○坂野久美（岐阜医療科学大学，立命館大学）

## 3-5 労働問題の精神医療化に関する研究

—「心の病」による休職者増加を事例として—

○奥田祥子（近畿大学）

## 3-6 女性性機能不全に対する支援について考える

—青年期心性／境界例心性の延長、ないしは社会的不妊という観点から—

○水野 礼（名古屋大学，名古屋市立大学）

一般演題／口演	10:00～12:00	誌上発表者も含まれています
---------	-------------	---------------

●セッション4 支援

司会：木下 衆（慶応義塾大学）

4-1 医師が取り組む「まちの居場所づくり」の可能性と課題

—医師の医療観変化の視点から—

○景山 晶子（明治学院大学）

4-2 超重症児の医療導入時に代理意思決定をした親のその後の経験

○田中雅美（甲南女子大学）・村上靖彦（大阪大学）

4-3 子育て期の親が遭遇するネガティブサポート

—障がいある児と共に被災した親の体験から—

○木村美也子（聖マリアンナ医科大学）・山崎喜比古（日本福祉大学）

4-4 卵子提供型生殖補助医療における自助グループの必要性

—当事者として自助グループを運営した経験を通じて—

○なかさとみ（放送大学）・入澤仁美（兵庫医科大学）

4-5 男性・LGBTsの性暴力被害の実態と被害者支援の課題

—男性・LGBTs当事者と向き合う支援者の語りから—

○伊藤良子（大阪府立大学）

4-6 薬害HIV感染被害患者における健康関連QOLの実態と長期療養における通院・医療の確保および生活再構築支援の必要性

○久地井寿哉・柿沼章子・岩野友里・武田飛呂城・大平勝美  
（社会福祉法人はばたき福祉事業団）

看護・ケア研究部会総会	12:00～12:30	
-------------	-------------	--

総会・授賞式	12:30～13:30	
--------	-------------	--



RTD 7

14:00~16:00

司会：入澤仁美（兵庫医科大学、順天堂大学）

**R-7 現代社会における生殖の意思決定の多様な在り方**

—生殖補助医療を利用した家族の実現を通じて—

企画者・司会：入澤仁美（兵庫医科大学、順天堂大学）

話題提供者：稲垣恵一（日本赤十字豊田看護大学）

水野礼（名古屋市立大学、名古屋大学）

伊藤ひろみ（クリオス・インターナショナル）

なかさとみ（放送大学）

RTD 8

14:00~16:00

**R-8 コンテストーションを超えて**

—治療と介入の社会学—

企画者：中川 輝彦（熊本大学）

話題提供者：美馬 達哉（立命館大学）

本郷 正武（桃山学院大学）

福島 智子（松本大学）

笹谷 絵里（花園大学）

RTD 9

14:00~16:00

**R-9 「セクシャル・マイノリティ」や「DSDs（体の性の様々な発達／性分化疾患）を持つ人々」のあり方をどのように医療者に伝えるか**

—保健医療社会的に医療実践者教育/研修を検討する試み—

企画者：檜田美雄（神戸市看護大学）

話題提供者：三部倫子（石川県立看護大学）

ヨ・ヘイル（ネクスDSDジャパン）

影山葉子（浜松医科大学）

## ●セッション5 看護実践

司会：白瀬 由美香（一橋大学）

## 5-1 急性期病院における入退院支援についてのワークの研究 (1)

—看護師を中心とする多職種の協働実践に注目して—

○西村ユミ（東京都立大学）・前田泰樹（立教大学）

## 5-2 急性期病院における入退院支援についてのワークの研究 (2)

—説明外来におけるリスクを可視化する実践に注目して—

○前田泰樹（立教大学）・西村ユミ（東京都立大学）

## 5-3 看護師が実践の責任を果たそうとするプロセス

○杉山祥子・朝倉京子（東北大学）

## 5-4 介護施設で働く看護職の仕事に対する認識がワーク・エンゲイジメントに与える影響

○高田望・朝倉京子・杉山祥子・原ゆかり・二瓶洋子・伊藤佳美  
(東北大学)

## 5-5 通常の中学校で医療的ケアを実施する看護師の活動の効果と課題

—通常学級の担任と特別支援学級の担任のインタビューを分析して—

○荻野貴美子（星槎大学）

## 5-6 EPA 帰国インドネシア人看護師の能力活用における現状

—ジャカルタ日系クリニックでの調査からの分析—

○小田雅恵（帝京平成大学）

## ●セッション6 フィールドワーク

司会：海老田 大五朗（新潟青陵大学）

## 6-1 患者満足度を高める要因は何か

—医師と患者の比較分析—

○竹重 幸（京都大学）

## 6-2 在宅療養者家族のある特徴的なコミュニケーション

—訪問看護師へ家族からの報告—

○松浦智恵美（立命館大学）・檜田美雄（神戸市看護大学）

## 6-3 通訳実践中の通訳者の「自発的発言」についての考察

—助産師外来における通訳を介した相互行為の会話分析—

○飯田奈美子（日本学術振興会, 立教大学）

## 6-4 「片手で出来る料理教室」のエスノグラフィー

—“夢のみずうみ村”における新たな人生の再構築プロセス—

○葉山靖明（株式会社ケアプラネッツ）・細田満和子（星槎大学）

## 6-5 妊婦健診場面において示される妊婦の〈了解〉についての検討

—妊婦と医師との相互行為の分析から—

○大和田裕美（静岡県立大学, 東京都立大学）

## 6-6 希少性・難治性疾患の患者組織と患者を中心とする研究参画のあり方

—日本とアメリカの患者組織の事例から—

○渡部 沙織（東京大学）